



François Laxalt

最新の調査でカラ IBA (カメルーン) の Mbam Minkom には多数のズアカハゲチメドリ(写真)が生息し、その分布も推定できました。

バードライフ・ニュースバイト 第 11 号

2009 年 5 月 20 日

ズアカハゲチメドリの保護: カメルーンのカラ IBA の Mbam Minkom で行われたズアカハゲチメドリ (絶滅危惧 II 類) の完全な調査により、この種の保護に関する新しい知見が得られました。6 羽の鳥の尾に取り付けた電波発信機がうまく作動し、この方法が他のハゲチメドリ類の研究にも応用できることが分かりました。「この調査からカラ IBA には多数のズアカハゲチメドリが生息し、その営巣地の分布の推定が出来ました。また調査により農業の侵食や不法な木材採取による生息地の破壊が差し迫っていることも明らかになりました。」とカメルーン生物多様性保全協会(カメルーンのパートナー)に所属する著者のアワ・タク博士は言いました。「これらの結果は森林管理計画を策定する上で、保全すべき森林の境界とコア地域を設定することで政策決定に重要な示唆を与えるものです。」

イラクでのバードウォッチングの夜明け: 最近行われたネーチャー・イラク(イラクのパートナー)による 10 日間のバードウォッチング技術の集中訓練講座の期間中に 128 種もの野鳥が記録されました。「イラクではバードウォッチングはまだ新しい活動で、この訓練の期間中にいろいろなことが明らかになりました。」とネーチャー・イラクの Mudhafar Salim は言いました。国中から北イラクのクルディスタンに集まった 10 人の訓練生のチームは鳥の識別方法や、個体数のカウント、データへの入力や脅威の分析方法などについてより多くを学びました。この期間中の特筆すべき観察記録はエジプトハゲワシ (絶滅危惧 IB 類)、ヒメチョウゲンボウ(絶滅危惧 II 類)、ハンエリビタキ、キノアオジ(共に準絶滅危惧種)などでした。この講座はバードライフの中東地区アドバイザー、リチャード・ポーターの助けによりネーチャー・イラクのスタッフが行いました。「訓練講座はネーチャー・イラクの IBA における監視活動に対して大きな支えとなりました。また私たちは多くの IBA 候補地を特定し、これらの場所も定期的に監視を行うことに同意しました。」と Mudhafar Salim は付言しました。

エジプトで初めてのサイト支援グループ: エジプト自然保護の会 (NCE:エジプトのパートナー) が初めてのサイト支援グループ (SSG) をカラ湖保護地区 (LQPA) に作りました。このグループは地元民の

大半を占める漁民を含む地元と国全体からのメンバーで構成されています。グループは早くも巨大な建設会社が湖に廃棄物を捨てるのを止めさせることに成功し、また地元民は環境法への侵害に対する報告を提出することになっています。「エジプトではまだSSGという考え方は新しいものですが非常に期待が持てるもので、NCEは近い将来このコンセプトを他の地域にも適用したいと考えています。」とNCEのKohar Garo Varjabedian博士は言っています。「将来の計画には自然への関心の喚起と教育活動、もっと多くの地元の生徒との共同作業、新しいパンフレットの配布、渡り鳥の保護のために湖を積極的に守ってゆくことなどが含まれます。」とNCEのMahmoud Faragは付言しました。

カメルーンの原住民に再び希望が： カメルーンのNgovayang Massif 森林IBA周辺の原住民はバードライフによる生計手段と生物多様性保全の改善作業が新しい5カ年計画として継続されることが発表されて喜びました。「新プロジェクトは地元の狩猟採集民と近隣の人々との間の開発格差と資源に接近する権利の格差を減らすことを目指しています。」とバードライフの西アフリカ地域副コーディネーターのPaulinus Ngeh博士は言いました。「私たちはNgovayang Massif 森林IBAの天然資源の管理と利用の改善も考えています。」カメルーン生物多様性保全協会(カメルーンのパートナー)はきれいな水へのアクセスを助けること、住宅・健康・教育の改善などの活動も行っています。このプロジェクトは英国政府の国際開発局により資金支援が行われます。

西アフリカの上部ギニア森林地域の維持： 西アフリカの上部ギニア森林地域の保全地域を守り管理するための新しい3年計画が始まりました。このプロジェクトはガーナ、リベリア、コートディヴォアール、ギニアおよびシエラレオネで保護活動の能力を築くために保護地域の管理者、若い卒業生および地元のコミュニティ団体に焦点を当てるものです。「私たちは気候変動のような新たに生じた自然保護の上で重要な問題についての知識を高める一方、若い卒業生を支えて効果的な保護活動を行い、またリベリアのサポ国立公園やピソ湖森林保護区、シエラレオネのゴラ森林保護区、コートディヴォアールのアザニー森林保護区などの保護地域でのサイト支援グループへの支援活動の改善を継続します。」とバードライフのPaulinus Ngeh博士は言いました。このプロジェクトは重要生態系保全基金(CEPF)からの60万米ドル(約5,700万円)の資金支援を得ています。詳細はこちら(本部HP)
http://www.birdlife.org/news/news/2009/05/news_byte_11.html